



みみづく 通 信

京都市手話学習会「みみづく」
本部機関紙部発行
会長 石神博行
事務局 FAX 075-812-6112
みみたん通信 第66号
<http://www.mimizuku-kyoto.com/>
2026年 1月1日発行

新年あいさつ

新年、明けましておめでとうございます。

2026（令和8）年が始まりました。皆さま、どんなお正月を迎えるされましたか。今年の干支は「午（うま）」。「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年だとか。

さて、昨年は私たちにとって非常に目まぐるしい1年でした。6月に聴覚障害者にとっての長年の悲願だった手話に関する法律、「手話施策推進法」が国会で満場一致で採択されました。手話やろう者に関する制度が、大きく前進することを期待させてくれましたね。8月には第58回全国手話通訳問題研究集会～サマーフォーラム～が京都で開催されました。多くのみみづく会員もご参加頂き、中には要員としてご協力頂いた方も少なくなかったと思われます。9月には、「手話施策推進法」に基づき、制定された「手話の日（9/23）」に京都市役所前で、京都市聴覚障害者協会や京通研市内班と共にイベントを行いました。翌10月には近畿ろうあ者大会、そして極めつけが11月に東京で開催されたデフリンピックです。手話やろう者の活躍をいつもなく目にする日々ではなかったと思います。大いに盛り上がった1年でしたね。



さて今年は、どんな1年になるでしょう。昨年の流れを引き継ぎながら、より活動的な取り組みができるることを願わずにおられません。どうか、今年も京都市手話学習会「みみづく」をよろしくお願ひいたします。

京都市手話学習会「みみづく」
会長 石神 博行

目 次

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1・・・新年あいさつ | 7・・・広島県福山手話サークル |
| 2・・・近畿ろうあ者大会 in きょうと | 「芦の会」45周年記念 |
| 3・・・京都府聴覚言語センター | 8・・・料理教室／ |
| 10周年記念／ | いこいの村バスツアー |
| 「手話の文法を知ろう」 | 9・・・ほほえみ広場 |
| 4・・・手話の日・国際手話言語デー | 10・・・手話劇を楽しむ会 |
| 5・・・「医療と手話通訳」学習会 | 11・・・楽しいスポーツ大会／ |
| 6・・・サマーフォーラム特集その2 | 「国際手話で語ろう」 |
| | 12・・・行事予定／編集後記 |

第75回近畿ろうあ者大会 in きょうと

10月5日（日）10時～16時、京都テルサにて「第75回近畿ろうあ者大会 in きょうと」が行われました（参加650人）。第1部（午前）の式典では、各挨拶と、近畿ろうあ連盟の会務報告・大会宣言・大会議決が行われました。2025年度活動方針は20あり、6月25日に公布・施行した手話施策推進法を受けてすべての市町村に手話言語条例づくりに取り組むことと、東京2025デフリンピックに向けてデフスポーツの振興に取り組むことが目玉でしょうか（私見）。

第2部（午後）は日本原水爆被害者団体協議会の記念講演「ノーベル平和賞授賞までの歩み、そして真の世界平和を達成するために」がありました。最初は城陽市在住の榎郷子（えのき・きょうこ）さん（90歳）でした。やさしく、ゆっくりした話し方でご自身の経験を詳しくお話いただきました。当時、榎さん（11歳）は学校に行くのをさぼって家にいたところ被爆（爆心地から約2キロ）されました。父・母（全身ガラス傷）と一緒に火災から逃げた。黒く焦げた人や死んだ人がたくさんいたが、怖いとも思わず逃げたという。想像を絶する過酷な状況だったのだろう。その後、爆心地近くの学校にいたお姉さんは帰らず、上着だけがみつかった。その上着は平和記念館に納めてあるとのことでした。

お二人目は、被団協代表理事の松浦秀人（まつうら・ひでと）さんでした。冗談も交えながら愛嬌のある話し方で、ご自身のこと、被団協のこと、ノーベル平和賞授賞の様子について話していただきました。松浦さんは母が広島で被爆した、体内被爆者（4号被爆者）です。被爆者援護法では被爆者を次のように定義しているとのこと。〔1号：原爆投下の広島市、長崎市の一定区域内にいた者、2号：原爆投下2週間以内に爆心地から2キロ区域に立ち入ったもの、3号：原爆投下後、身体に放射能の影響を受けるような事情があった者（避難した負傷者の看護等）、4号：1～3号被爆者の胎児であった者〕当時、被爆や後遺症のことを誰も知らなかった。伝染病と思っている人も多く、差別を受けた。政府は被爆を軽度とし、報道規制をしていた。問題になったのは1954年にビキニ環礁で第五福竜丸が被爆してからのこと。松浦さんは久保仲子（くぼ・なかこ）さんの勧めで被爆の手続きをし、被団協に入り、活動を続けてこられました。

そして、ノーベル平和賞授賞式の様子をたくさん教えてくださいました。オスロ（ノルウェー）に、各国にいる被団協のメンバー総勢38人が集結。代表者3人は国賓扱い。街中、折り鶴で飾られていた。松明（トーチ）の行進。厳かな市庁舎での式典など、素晴らしい様子が語られました。最後に、戦争は多くの一般の人が被害を受ける、決して戦争はあってはならないと訴えられました。

なお、大会後はデフリンピックのキャラバンカーが京都テルサから出発しました！



上京支部夜の部 渡辺 久美

京都府聴覚言語障害センター開所10周年記念

10月11日（土）、京都府聴覚言語障害センター（以下、府センター）開所10周年記念式典が、城陽の府センターで開催されました。

式典は府センターに隣接する城陽市男女共同参画支援センターばれっとJOY0で開かれ、来賓は21人でした。6月に社会福祉法人京都府聴覚言語障害者福祉協会（以下、法人）の理事長を高田英一氏から託された志藤修史新理事長のお披露目となった挨拶から始まりました。

府センターは2015年に開所して今年で10年。法人の理念である「すべての人々の社会への完全参加と平等」「人々の豊かなコミュニケーションと手話を含む言語選択の自由が保障される社会」の実現を目指して歩んできた成果を、地域の人々と共に、記念のお祭り気分を満喫しました。1階の広場ではハンバーグ丼や韓国料理、ビール、菓子パンがあり、ステージ発表がありました。2階は子ども向けの手話講座やプチヨガ体験がありました。

3階はモルク体験とバザーでした。ステージでは京都府立京都八幡高等学校の生徒による手話歌やマジックショーがありました。また、障害者支援センター「みなみかぜ」の利用者の皆さんによる手話トークと手話歌に会場は終始、にこやかな笑いと拍手に包まれていました。

南支部 持田 隆彦



「手話の文法を知ろう」に参加して

10月4日（土）開催の「手話の文法を知ろう」に参加しました！

海野和子さんを講師に迎え、ひと・まち交流館京都で講座が開かれました。参加者は約50名とたくさんの方が参加されていました。講義は、13:00～16:00までの3時間と長時間でした。

休憩を挟みながら、すごいスピードで進むので私にとって、とてもレベルの高いものでした。

今回の講義では「口形・うなずき・いいえ文（否定文）」の3つを教えて頂きました。

口形の学習内容は①問題ない②面白目に③必死に④だらだらと⑤快適に・・を口形で表現するというものでした。A～Eまでのグループがあり、講師の用意したイラストから各自がイメージした内容に口形をつける。その口形が合っているのかグループで話し合いました。

最後にグループ代表者がみんなの前で発表しました。最初から最後まで学びが多かったです。

講座修了後の交流会ではうなずきの具体的な例や日常会話の中で使い方を実践を通じて教えていただきました。

中京支部昼の部 松江 才子

手話の日 手話言語の国際デー

9月23日（水・祝）秋分の日に京都市役所にて『手話の日（手話言語の国際デー）』イベントが開催されました。昼間に市民の皆さんに興味を持ってもらうように、様々な催しを準備していました。初心者向け手話ブース、手話通訳体験、グッズ販売などなど。私の担当は、手話ゲームです。手話を全く知らない人用と手話を知っている人用の2種類を用意しました。



イベント前日には、京建労北支部に行き、テントを運び込むお手伝いをしました。お手伝いに来たのは、市聴協の中山会長、川本さん、濱島さんとトラックの運転をしてくれた吉田さんと私の5名でした。闇夜の中、トラックのライトを頼りにせっせとテントを会場に積み込みました。

そして9月23日当日、舞台では手話を知らない人のために、「聞こえない人ってこんな感じなんですよ」と、即興に近い劇を披露していました。皆さん、さすが役者ですね。ナチュラルな演技で笑いもあり、良く分かる内容でした。それと、「デフリンピックとは何?」もありました。最後には『しゅわしゅわデフリンピック』をみんなで踊りました。みみずく副会長の鈴木さんがノリノリだったのが印象的でした。

私の担当の手話ゲーム「①手話を知らない人でも実は手話表してるんだよゲーム」と、手話を知っている人用の「②組み合わせ漢字ゲーム」です。①では、手話を全く知らない人を集めて様々な単語を表してもらいました。例えば「バイク」「自転車」「歩く」「タバコ」「バスケット」「バレー」など、あと、「女性」「男性」「結婚」なども表現できました。

そこへ、「私たちのするゲームって無いな~」って言うてます、と係りの人に問い合わせがあったので、その女の子たちのところに行きました。ろう学校の生徒さんでした。

②のルールは簡単で、手話表現の組み合わせで一つの漢字を作ることです。「龍+耳=聾」。次々と色々な漢字が出来上りました。「草冠+月+月=萌」「木+黄=横」などなど。かなり盛り上りましたね。皆さんも例会でやってみてはどうでしょうか?

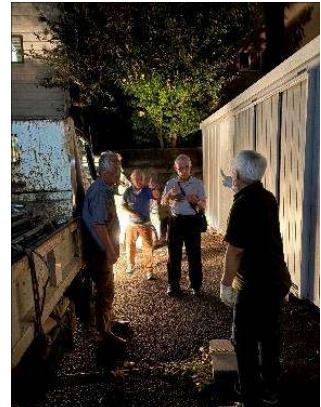
そんなこんなで、私も含め皆さん盛り上がったイベントだったと思います。途中で暇そうにしていたお客様がいたので、中京の川島さんを誘って初心者用手話ゲームもしました。川島さん、ご協力ありがとうございました。

最後に、府庁のライトアップを見に行ったんですが、点いていなくて問い合わせたところ、あちら側のミスで点かなかったそうです（ぶんぶん）

西京支部火曜の部 安政 裕之

みみずく会の目的

手話を学んで、ろうあ者の良き友となり、すべての人に対する差別や偏見をなくしていくために努力し、その活動を通じて私たち自身も向上していくことを目的とする。



「医療と手話通訳」学習会(パート2)

11月8日(土)、壬生会館に於いて「医療と手話通訳」をテーマに京通研の学習会が開催されました。初めに持田氏より、「実は3年前にも大阪の大学で実施した内容です。

現役医師のコメントを聞いてみると、"医療の専門的な言葉は難しい" "糖分を控えるとは?" "等々の、しっかりと伝えるのが難しい"という意見がありました。皆さんも色々自由に喋ってください」と。こんな流れで、4つのグループに分れて意見を出し合い、最後に各グループから出された主な内容を発表しましたので紹介します。

【Aグループ】

聴者も、ろう者も高齢で手話通訳の経験がない。

ろう者は手術室の中では手話通訳者がいないと大変ね。⇒ 必要な時は筆談で行う。

お薬は沢山出るけど、自分の判断で飲めるように整理出来ない。

目薬・・・散瞳薬があると目の場合、困るな。

問診表・・・統一されているのかな? 何を問われているのか分からぬ。

【Bグループ】

ろう者2人の意見⇒近くの病院では、ろうであることを伝えると、透明マスクと筆談で対応してくれた。安心して通っている。

訓練センターに行くと、手話のできる人がいてくれたので良かった。

専門分野については漢字で書いてくれた。例: 糖分、塩分、水分など…説明は難しい、栄養士から、絵で表すなど準備してもらえると分かりやすい。

【Cグループ】

ろう者(A) 夜に突然、病院に行くと手話通訳者は不在だった。

それで、聴言センターに電話して、手話通訳者の予約をしてから受診した。

ろう者(B) 家に設置の緊急ボタンで消防に連絡。手話通訳者も頼んだ。

市立病院受診について: ろう者が受診の際は紹介状がないと受診は出来ない。

ろう者同士が集まるグループがあって、それぞれがそこで話をして情報を得ている。

【Dグループ】

病院に行くのも歯科医院に行くのも、ろう者にとっては大変! 小さな病院はもちろん、耳のシンボルマークが無い病院がある。地域にもっとこのお話を届くことが望まれる。

京都市では市立病院に手話通訳士が配置されている事は周知のところと思いますが、紹介状の件や事前に聴言センターへの連絡・通訳者申請が必要な事は改めて確認できた次第です。

最近は薬の種類ごとに写真付きで服薬の時間、飲み方、薬の効果と注意など、分かりやすくはなっていますが文字は小さいかもしれません。食事関係では塩分・糖分制限など、どんな注意点があるか、イラスト等で分かりやすく示したものを提示して、説明することが望まれますが、手話通訳者が対応できない場合は筆談かもしれませんね。医療者一人ひとりがろう者への対応を考えて行動出来たら?と、今は期待だけが先走ります。

また、今回は耳のシンボルマークがある医院等を探して受診するようにしているので不安はないとの意見を聞き、市内ではたしてどの程度の広がりとなっているのか注視していきたいところです。

参加者: ろう者 9名 聴者 21名 計 30名

西京支部木曜の部 片山 昌子



第 58 回全国手話通訳問題研究会 ～サマーフォーラム in きょうと～ みみたん特集号～その2～

A 講座（体験学習） 北コースに参加して

8月9日、北コースは観光バスで綾部・舞鶴方面に向かい「いこいの村聴覚言語障害センター」の施設見学と、「舞鶴港とれとれセンター（道の駅）」で買い物を楽しむ企画で、39名が参加しました。体験講座は人気企画で、A・Bコースとも定員以上の申し込みがあり、多くの人が抽選から外れたと聞いています。私は、実行委員会の企画部担当ということで、このA講座北コースに同行しました

朝8時15分、京都テルサに集まり検温してバスに乗り込みます。施設まで約2時間。バスの中で、いこいの村建設運動に関わって栗の木寮10周年や梅の木寮竣工式などのDVDを観てもらいました。ろうあ運動によって建設された全国初のろう重複障害施設ということで、施設見学前に当時の運動の様子を見てもらうことが出来ました。

いこいの村では、梅の木寮の施設を案内してもらいました。「どこから来ているの？」「北海道から沖縄まで全国から参加しています」「遠いところから…」などと、入所者の皆さんと触れ合うことが出来ました。その後栗の木寮の皆さんによる日常の作業や生活の様子など、スライドを使ってお一人お一人が紹介してくださいました。昼食後、おなじみのたかの里のパンの販売、参加者の皆さん思い思いにパンを買っていました。

午後1時半ごろにいこいの村を出て「舞鶴港とれとれセンター」に向かいました。買い物したり、コーヒー飲んでゆっくりする人、中にはほろ酔いの人もいましたが、1時間ほどゆっくりして帰路につきました。特に渋滞もなく予定の17時すぎには会場のテルサに到着しました。

41年前に京都で開催した第17回全国手話通訳問題研究集会で、地元の特徴を生かすということで「特別講座」を設け、いこいの村に行って農作業などの実習をしています。この企画が今の体験講座の原型になっており、今回の参加者にはその時にいこいの村に行つた方はいませんでしたが、41年前の京都集会に参加したという方はいらっしゃいました。

上京支部昼の部・ぺんぺん草 淺井 貞子

A 講座（体験学習）南コースを担当して

サマーフォーラムのA講座の南コース「京都ろう教育史跡巡り」の講師を担当しました。

9日は、全国手話研修センター見学と手話メイトさんの案内で天龍寺の見学。午後は府立ろう学校に移動して、国の重要文化財に指定された「盲唖院」時代の貴重な資料を、堀川文範副校長の案内で見学して一日目が終わりました。参加者25名と我々役員7名。



10日は北・南コース合流して「京都ろう教育史跡巡り」の話をしました。実際に現地を歩きながら、と言いたかったのですが連日の猛暑です。京都テルサの一室で涼を取りながらスライドを見て、まるで活動写真の弁士でした。

時は幕末、慶應4年鳥羽伏見の戦いが終わった直後の7月、江戸が東京、京都は西京(さいきょう)に改称。9月には明治に改元。12月には京都の町組編成、各組町に学校設置が制定。翌明治2(1868)年10月6日、第17番組小学校、後の待賢小学校が開業し、盲ろう教育創始の古河太郎先生の誕生です。しかし、7カ月後には辞任して千本牢獄に。理由



は授業中に帯刀、それと困っているお百姓さんのために新池造成のための公文書偽造が露見して千本牢獄に2年間の徒刑。しかしこれがきっかけで聾・盲教育に専心して、明治11(1877)年、京都盲啞院が誕生。盲啞院は大阪、東京、全国に広がっていった話、あっという間の1時間で、次の府聴言センター所長の今西和弘氏にバトンタッチし「京都聴覚障害者運動と聴覚障害センター」と題して話がありました。

南支部 持田 隆彦



広島県福山手話サークル「芦の会」 45周年記念に参加して

このたび、1980年に当時の主婦40人が結成した、広島県の福山手話サークル「芦の会」45周年記念に、京都市手話学習会「みみずく」より講演をしてほしいと依頼があり、石神会長と共に式典に出席しました。

『明日につなぐ～ろう者と手話とみみずくと～』と題して、これまでのみみずくの歴史を振り返りながら講演は進みました。式典参加者のなかには同じ時を過ごされた先輩達もいますが、当時の背景を初めて知る人は石神会長の話に夢中の様子でした（私もその1人です）。

限られた時間では語り尽くせないほどの内容だったため、一部省略するかたちとなり講演は幕を閉じました。

式典後の食事会では、活動報告や地元福山にまつわるクイズに挑戦しましたが、私が特に关心したのは2014年に福山市のまちづくりキーワードモデル事業に認可された「ふくやま観光手話ガイド」の活動です。芦の会が観光に訪れたろう者のみなさんに福山城と鞆の浦（とものうら）を案内します。毎年依頼があり、京都からもぜひご参加くださいとのことです。企画に加えてみてはいかがでしょうか？

山科支部夜の部 鈴木 翔悟

料理教室に参加して

2年ぶりの開催となる料理教室（市聴協女性部主催）ですが、私は初めての参加なのでこの日をとても楽しみにしてました。ろう者だけでなく、聴者の参加も多かった印象でした。

料理は「シーフードグラタン・シーザーサラダ・チーズトライフル」の3品。

「トライフル」とは、イギリスのデザートでスポンジケーキ、クリーム、フルーツなどを層にして重ねたものです。

まずは別室にて先生の実演を見て作り方を学ぶのですが、グラタンの焼き上がる匂いに思わずヨダレが…。その後調理室で班ごとに分かれての調理開始！どの班もあれよあれよと手際よく分担して作業していき…グラタンは8分くらい焼いてハイ完成。もっと時間がかかるものだと思ってました。



出来上がった料理を堪能しつつ、楽しい手話べりの時間はあつという間に過ぎていきました。

さて、家に帰って作ってみようかな～と思ったのですが、一人暮らし中なので「まあ、いつか作ろう」と、以来そのまま作っていないのはここだけの話ということで。

山科支部夜の部 鈴木 翔悟



テレビのコマーシャルでおなじみの「男梅」とは違って、同じ梅でも「梅の木太郎」、ひょろっとした大きな赤茶色の梅の頭・顔の梅の木太郎が舞台に出てきて、梅の木寮のおじいちゃん、おばあちゃんは車イスで「梅の木体操」をやっていました。「行こか、行こ行こ、共に楽しく笑(わ)っしょい、笑(わ)っしょい」会場全体で笑っしょい、笑っしょい。楽しい体操でした。

10月18日、いこいの村まつりで式典後のステージの様子です。栗の木寮の仲間は「シンデレラ」ならぬ「クリデレラ」。笑いました。クツを合わせて「おゝ、ぴったりだ。貴方が私の探し求めていたクリデレラ」二人は仲良く、末永くいこいの村で暮らしましたとさ。クツの合わなかった姉たちは、また来年は、きっと合わすぞ。合わせていこいの村で会いましょう！！

暑い陽射し、時折り雲で陽が陰るとホッとする秋晴れの中、懐かしい顔・顔・顔。市内にいた高齢者、若いろうあ者、入所者の皆さん元気そうで、笑顔がステキでした。



そうそう、バスツアーは市聴言センターセンター・3階の若木寮でコロナ発生により急遽20人が不参加となり、バスはゆったり座っての行き帰りでした。仲間の皆さんには残念でしたが、私たち30人ほどは楽しい一日でした。

南支部 持田 隆彦



ほほえみ広場に参加して

10月18日（土）午前11時から午後4時まで、KBSホールで「2025 ほほえみ広場」が開催され、私は午前の時間帯に要員として参加しました。

10年以上続いているイベントですが、京都市の財政状況が厳しく令和4年度に廃止の危機に。しかし、「身体・知的・精神の三障害が一堂に会して実施し、障害当事者の相互交流の場、市民との交流の場としての役割も担っているこのイベントをなくすのはもったいない！」と、当事者団体が主体となって続けていくことになったそうです。会場は、京都市主体の時の梅小路公園から現在の場所に変わりました。

障害者施設等による製品の販売、障害者団体による手話や障害者スポーツ体験、障害者ゲーム体験や聴こえ相談などのブースが並ぶほか、舞台では様々なパフォーマンスや、関係団体の紹介動画などが上映されていました。デフダンスでは、ろう者、聴者とも見知った顔の方たちが、社交ダンスを披露されていました。

手話体験では、午前は京都市聴覚障害者協会の中山会長と、北区の濱島さんの“渋おじ”コンビが担当。体験者は午前だけで約20人。来場者だけでなく、ほほえみ広場のボランティアスタッフにもせっかくの機会なのでと、手話体験をしてもらいました。ボランティアは各ブースに固定しての配置ではなく、時間を区切り、いろいろなブースを担当する形っていました。手伝うだけでなく、障害者や当事者団体について学ぶ機会にしてほしいという、ボランティアに対する主催者の意図を感じました。

私は主に濱島さんの横でサポートしていたのですが、私の出番はほぼなし。声も、筆談すらほとんどなく、体験者とやりとりをされていました。ある男性体験者の場合を一例にあげてみると、簡単な挨拶の紹介のあと（こちらは紙が用意されていたので、それを指さしたりされていたかも）、濱島さんが趣味を尋ねる。こちらのみ私が「趣味は何ですか？」とフォローした気がします。男性が「山登りは手話で？」と私に聞いてきたので「何とか伝わるように身振りでもいいから」と言うと、手で山の形。それを見て濱島さんも察したようで、山登りの手話を示す。その後、左右の空間を使って、「高い山、低い山、どっち？」体験者はすぐ理解でき、「低い山」と手話だったか、指さしだったか忘れましたが、返答。「重い荷物、軽い荷物、どっち？」「一人、友だちと一緒に、どっち？」といった質問に体験者は返答。とてもスムーズに会話が進んでいたので、終わってから、体験者の男性に、手話の経験を尋ねたところ、ないとのこと。濱島さんの会話の進め方のうまさと、体験者の勘のよさに感心しました。

隣のブースではボッチャをしていたので、まだ来場者があまりいない朝に、体験してみました。ボランティアの男性と勝負！ 結果は私の圧勝。中山会長も、体験者がいない時間帯に、ボッチャ体験をされていました。

上京支部昼の部・ぺんぺん草 内井 理美

手話劇を楽しむ会に 参 加 し て

小春日和の11月30日（日）手話劇を見に行きました。かねてより手話劇には非常に関心があり是非見たい！と思いつつ、なかなか機会がありませんでしたが、今回ようやく見に行くことができました。

今年は5団体が参加、サークルで出会うろう者も出演されるそうでとても楽しみでした。会場の北文化会館に着くと大勢の観客で長い列ができていて、ホールに入るとすでに半分ぐらいの席が埋まっており、すぐに満席になりました。

1番目は劇団あしたの会による「源さんの引き出し」。久しぶりに会って心がすれ違っている親娘が、引き出しの中の絵手紙を見て心を通わせるというほのぼのとしたお話。父の書いた絵手紙を見ながらボソボソとつぶやく娘の演技がお見事でした。ちょっと涙。



2番目は、なかつ手話クラブによる「小さなお葬式」。自分の葬式を元気な間に体験する奇想天外なお話。仏式、キリスト教、新式と様々な葬儀を体験するのですが、どれもしきりこない主人公は音楽葬を提案されます。そこで登場する音楽隊には盲目のピアニストやろう者のパーカッションが器用されました。そして登場人物たち全員が揃って音楽に合わせて踊り幕となりました。拍手喝采！



3番目は、手話舞台「箱」による「その扉を開けろ！天国か地獄か」。平和な世の中で暇になった閻魔大王の地獄改造計画。楚々とした女房役の女性（ろう者）が、鬼に水の代わりに騙してお酒を飲ませ酔っぱらわせます。その時のしたり顔はお見事でした。噂通り衣装もメイクも背景の色も素晴らしいかったです。七変化の顔に拍手。



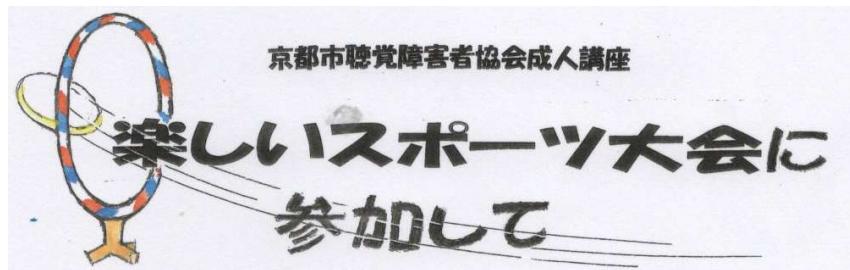
4番目は、ど根性なすびによる「少女とオオカミと魔女」。魔女に声を奪われた少女が“声”を返してもらうために、山に咲く花を取りにオオカミと一緒に旅をするお話。山にたどり着いたら大蛇に襲われますが、少女が果敢に戦いオオカミを助けました。花を届け無事“声”を返してもらい魔女とも仲良くなつてめでたしめでたし。オオカミの耳と尻尾とつま先がとても上手にできつていて感動！少女役の少女も熱演でした。

最後はウエストフレンズによる「時よもどれ！」。これは手話通訳者の苦労話やろう者の読み取りにあくせくする人々の悩み多きお話。それを時間を戻すことによりなんとかしようとするなんとも不可思議な、でもほんとにできたらいいのにと思わせるお話でした。時計役さんお疲れ様！



どの劇団もストーリーが斬新。衣装、メイク、大道具、小道具、全てにおいてプロの劇団の様です。脚本家と演出家さんに敬意を評します。来年もぜひ見に来ようと思います。

山科支部屋の部 嶋田 早紀子



2025年11月9日(日)楽しいスポーツ大会が、高野の身障者スポーツセンターで開かれた。参加者はろう者21人、健聴者29人、講師3人の計53人。

先ず初めに、そして軽めのストレッチ(準備体操)から競技を始めました。

最初はフライングディスク。前方に置いた直径7~80センチぐらいの大きな輪に円盤形のディスクを投じて的の輪の中を通す、西洋の土器(かわらけ)投げである。いたって簡単な競技である。ところが然(さ)に非(あら)ず、上手く入る人、まるで通らない人。周りの人がディスクの持ち方や投げ方を教えたり、教えてもらったりしながら、一投ごとに沸き上がる歓声。

2番目は輪投げ。結構近い距離だが、これも上手い人、なかなか棒に輪が入らない人、上手く入れば拍手と笑顔が弾ける。

3番目はモルック12本の直径3~4センチ、長さ10センチ前後の長短の棒を並べ、同じく少し太目の丸木の棒を持って、前方に並べた丸木棒めがけてそっと投げる。

昼食後は2種目。午後一番はカローリング。床に敷かれた的に向かってストーンを滑らせるが、的を通り過ぎたり、短かったり、途中で曲ったり。皆さん四苦八苦。でも的に近かったり、的の上にストーンが乗れば、皆、笑顔と拍手で大盛り上がり。

次はジャンケンゲーム。ジャンケンの強い人弱い人。勝てば残り、負ければ退く。途中から「あと何人残ってる!!」と、後ろを気にしながら、勝てば本人もチームも拍手喝采。負けたチームは、本人はもちろんチームも残念がってため息。

最終結果は白組の勝ち。でも、勝負に關係なく皆さん楽しく、教え合ったり、拍手をしたりで、最初から最後まで笑顔、笑顔。中には悔しい顔も、でも楽しんでおられた。

怪我も無く、無事に終わってホッとしました。皆さん、お疲れ様でした!!

東山支部 橋本 邦子



「国際手話で語ろう！」に参加して

2025年9月28日(日)京都生涯学習センター(アスニー)にて行われました。

国際手話を知らない人が参加して大丈夫なのか不安でしたが、日本手話での解説が入ることで参加を決めました。最初に国際手話の説明があり、次に「バス」を「国際手話で表しちゃう！」ということで参加者がイメージしたバス表現し、通じるのか通じないのかを確認しました。参加者がたくさん集まることで、いろんな表現をみることが出来ました。連結された外国のバスを表現した方もいました。私は日本のバスしかイメージできません(T-T)。次に「自己紹介」「お話してみよう」「(講師の)エマさんのミニ語りを読み取ろう！」と内容は進みました。とても刺激のある1日を過ごしました。最後にエマさんに話しかけましたが私の手話は通じなく(T-T)、他の参加者に通訳して頂きました。自分の知らないことを学べたとても楽しい1日でした(*^o^*)。

中京支部昼の部 松江 才子

行 事 予 定

- 1月11日（日） 第26回京都市聴覚障害者成人式＆新年大会
- 1月24日（土） ろう者の話しを聞こう
(みみずく学習交流部)
- 2月8日（日） 京都手話フェスティバル
- 3月1日（日） 耳の日記念集会
- 3月7日（土） みみずく全体研修会

編 集 後 記

みみたん通信66号に原稿を寄せてくださった皆様、お忙しい中
ありがとうございました。



皆様、あけましておめでとうございます！
昨年はいろいろとお世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いします！！

昨年はデフリンピック等、色々な行事がありましたね。
私自身も、サマーフォーラムに参加したりと、色々な行事にて沢山のろう者の
方達とのコミュニケーションをとる機会がたくさんありました。
その中で、たくさんろう者の方から教えていただくことがありました。
今年も、色々な行事に参加してたくさんの方達とコミュニケーションを取りたいな
と考えております。
また、どこかでお会いした際はぜひともお声がけくださいね♡

次回のみみたん通信も皆様より楽しいご寄稿をお待ちしております♪
どうぞよろしくお願いします！

中村 清乃